



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 16 〈短絡的判断〉

タイトル：ちょっと待て！大丈夫か？

【事例】

管理区域内をパトロールしていたところ、ドレン配管から出ている水がファンネルから溢れているのを発見しました。オーバーフローした水は床に広がっていました。

とっさにドレンを閉めようと思いつくつもりでしたが、「ふっと」もしかしたら汚染水であり、被水するかもしれないことや、バルブを閉めるとその系統に影響が及ぶかもしれないことに思い当り、バルブに近づくことをやめました。

【ヒューマンファクターの視点から】

人は、瞬間的に注意が1点に集中すると、周りを見ずに行動してしまう本能を持っています。これは【場面行動本能】といいます。特に「よかれ」と思っるとる行動は、行おうとする行動に注意が集中し、周囲のリスクへの注意が鈍感になってしまい、場面行動本能が現れがちになります。

場面行動本能に従った行動の例として、「脚立の上で作業をしていたところ、工具が手から滑り落ちたので、思わず手を伸ばして（身を乗り出して）工具を掴もうとしたが、バランスを崩して転落した」等が考えられます。

場面行動本能は人が生まれつき持っている本能であるため、この行動を制御することは困難です。しかし、常に周囲の環境やプラントの状況に対するリスクに注意を向けたり、潜在するリスクを想定することを心掛けていれば、とっさの行動時にブレーキをかけることができるかもしれません。

「水が漏れているからバルブを閉める」「モノを落としたから手を伸ばす」というような、「よかれ」と思っるとる行動は、リスク認識を喪失させ、思わぬトラブルを引き起こしかねません。通常と異なる状況に直面した時は、とっさの行動に出る前に、上司や同僚または所定の連絡先に報告・連絡し、対応について相談することが必要です。

原子力という特異な環境であることを意識し、自分の周囲にはリスクが潜在するという認識を常に持って、とっさの行動によるトラブルの回避に活かしましょう！